

G7 伊勢志摩サミットに関する声明

世界の民衆は帝国主義首脳会合に抵抗する

2016 年 5 月 25 日

ILPS コミッション 1（帝国主義とすべての反動に反対する民族的社会的解放の大義）

われわれ ILPS コミッション 1 は、日本の三重県伊勢志摩で開催される第 42 回 G7 首脳会合に反対し、日本で取り組まれる抗議行動への連帯を表明する。

G7 サミットは、巨大独占資本や多国籍企業の利益を代表する帝国主義諸国の首脳たちによる排他的な会合である。彼らは世界の抑圧され搾取された民衆の利害を決して代表していない。そうではなく、彼らは侵略戦争と新自由主義政策を推進することによって、世界の民衆に図りしれない苦難を強制してきた。

今年の G7 サミットは、ますます深まる世界資本主義の危機のただなかで開催される。独占資本とその政府にはこの危機を本質的に解決することはできない。彼らは、グローバルな舞台での市場の拡大と資源の略奪のために互いに激しい抗争を繰り広げつつ、ただただ危機の犠牲を労働者・民衆に犠牲を転化しようとしているだけである。

G7 の首脳たちは「対テロ行動計画」を採択することで、中東をはじめ全世界で帝国主義の侵略戦争、軍事介入、抑圧をさらに強化しようとしている。彼らはさらに、「暴力的過激主義」という曖昧な概念を新たにつくりだすことで、帝国主義と闘うあらゆる勢力への抑圧を拡大しようとしている。

アジア太平洋地域における米国の強い同盟国である日本で開催される今回の G7 サミットは、米国のこの地域への「戦略的回帰」を支持するものとなる。彼らは「海洋安全保障」の名のもとで中国に対する軍事的包囲を強化し、また、朝鮮民主主義人民共和国への一方的な恫喝を強めている。

日本の安倍政権は、サミット開催国の立場を活用し、世界を支配する帝国主義勢力のなかでの自らの位置を高めようとしている。昨年 9 月に新たな安保法制を強行制定した安倍政権は、自国の軍隊の海外への軍事出動の機会を伺いつつ、アジアにおける自国の軍事的影響力の拡大を狙っている。

反動的で右翼的な安倍政権はまた、今回のサミットを、天皇制を国内外にアピールする機会としようとしている。安倍首相は天皇制に深く関係する伊勢神宮があるがゆえに、今回のサミットの開催地を伊勢志摩に決めた。しかし、かつての日本帝国主義によるアジア太平洋での侵略戦争・植民地支配において、天皇制は日本の民衆を侵略戦争へと動員していくための要としての役割を果たした。現天皇は今もその責任を認めていない。

われわれ ILPS コミッション 1 は、侵略戦争策動と新自由主義政策を推進するこの帝国主義諸国の首脳たちの会合に反対する。われわれは G7 伊勢志摩サミットに対する日本の労働者・民衆の抗議行動を支持する。われわれは同時に、さる 5 月 19 日 ILPS の加盟団体でもある AWC 日本連絡会議の 3 人のリーダーの不当逮捕を弾劾する。これは明らかに G7 サミットに対する民衆の抵抗への先制的な政治弾圧に他ならない。

G7 サミット粉碎！

世界の労働者・民衆は団結し、帝国主義の侵略戦争、抑圧、収奪と闘おう！